

フィールドワークへの取り組みを中心とした 沖縄研究旅行の実践

山 田 孝

1. はじめに

本校の研究旅行の特徴は、旅行を単なる「観光」とするのではなく、生徒自身が目的を設定するグループ別のフィールドワークを実施していることにある。この生徒自らが学ぶ「沖縄」の研究旅行での取り組みと、今年度から始まった「総合人間科」の中での沖縄学習について報告する。

2. 本校の教育理念「国際理解と平和教育」と沖縄研究旅行

「国際理解と平和教育」を軸とした学校改革の中で、研究旅行も教育実践活動の柱として目的地を見なおされた。中学3年生の修学旅行は、目的地を高山（岐阜県）・千里浜（石川県）から「広島・大久野島」へ、高校2年の研究旅行も「長崎」から「沖縄」とし、平和教育を実践することになった。

3. 教育活動の総合化としての研究旅行

フィールドワークを通じて、「沖縄」を学ぶ。それも、与えられたものだけでなく、自ら学ぶ目標を持って、フィールドワークを行なった「国際理解と平和」について理解を深めている。本年度は、グループの研究テーマだけでなく、個人の研究テーマを持って研究旅行に取り組んでいる。グループテーマは、共同で学ぶということに重点を置いている。過去のフィールドワークの行程と本年度の行程を紹介して、フィールドワークの実践について報告する。

4. 総合人間科としての沖縄学習

本年度から、文部省の研究開発学校の指定校として新教科「総合人間科」が実施されることになった。この「総合人間科」の授業では、高校2年は「国際理解・人権・平和」を学年テーマとして取り組んできた。具体的には、研究旅行の目的地である「沖縄」についての学習と沖縄でのフィールドワークの事前検討を行ってきた。

「沖縄」についての学習では、教員がチームを作り、「人権・産業」、「文化・国際理解」、「平和・環境問題」の授業を行ってきた。